

「みんなで作ろう 市民トーク」開催結果（片浜地区）

1 日時等

- (1) 日 時 6月30日（木） 午後7時00分～午後9時00分
- (2) 会 場 片浜コミュニティ防災センター
- (3) 意見交換 地区が希望する説明、質問票・手上げ
- (4) 参加人数 47人

2 地区の希望する市政内容について説明（19:55-20:25）

(1) 津波避難計画について

区としての避難計画が整備されていない。地元でも検討をしているが、今後の整備に当たり、市から意見やアドバイスを頂きたい。

【回答：杉本副市長】

地区において、地域の皆さんが発災時に津波から早く安全に避難できるように計画を作成していただくことは非常に重要なことです。市では、各避難地の整備後に、家族内で連絡先や自宅からの避難経路を話し合ってもらうための「避難行動シート」の配布を考えています。日頃、家族で避難行動や避難経路について話し合い、訓練によって有事の際に早く安全に避難するための確認をお願いしていきます。

また、地区の皆さんで実際に歩いて具体的な避難路を考える「手作りハザードマップ」を作成したり、避難行動の話し合いや訓練に活用していくことなども計画のひとつと考えます。

【関連質問】

東日本大震災後、牧之原市全体の津波防災対策として、国から予算が24億円付き、避難タワーや避難地・避難路を建設しているということでしょうか。

【回答：杉本副市長】

そのとおりです。総事業費が約50億の事業で、国からの補助金というのは1/2です。避難タワー9、いのち山1、公園1、避難ビル1の整備を行っていきます。

【関連質問】

津波避難施設設置事業の現在の進捗状況は。

野村石油の所の橋りょう補修について、10億円の架け直し工事ではなく3億

円の耐震補強工事を選んだと言った。この橋は通学路としても大勢利用しており、歩道が付くと思っていたら、同じ道幅で完成した。土地の余裕のあった西側に歩道を付けてもらいたかった。

【回答：杉本副市長】

橋に歩道を設置すると、その前後の道路にも歩道が必要となり、工事が大掛かりになるため、今回は橋りょうの長寿命化・耐震補修を行ったということです。

【関連質問】

静波西保育園跡の避難タワーができたが、その前にすれ違いができない橋があります。避難の場合、原則として川は渡らないとことになっていると思いますが、億のお金をかけて避難タワーを作るなら、この橋の架け替えをして欲しかった。耐震化された丈夫な橋になれば、多くの方が秋葉山に避難できると思います。

【回答：杉本副市長】

現在、都市計画道路の静波中央幹線が、さざんかから加藤燃料の所まで一部完成しています。道場追廻線に繋げる予定で、今年度の予算で都市計画道路の見直し計画を作ります。

静波中央幹線の整備に合わせ、質問の後川橋の架け替えもこれから計画をしていきます。また、勝間田川の河川整備計画に向けて、後川橋の辺りは一部断面が足りないということもありますので、河川の拡幅も含めて、島田土木事務所と架け替えについて事前協議を始めたところです。

(2) 津波避難路の整備について

片浜地区は東西に広いため、山への避難路へ逃げるにも、まず国道 150 号線を使って横への移動が必要となる。山側の家屋においては、地震後に一旦海側の 150 号線に出るよりも、すぐに横の移動をしたいため、旧田沼街道が途切れている地域等において、横断的な道路の整備をお願いしたい。

【回答：杉本副市長】

片浜地区は海岸部が東西に広いため、全体で6ヶ所の避難地・避難路の整備を計画しました。これは、津波が到達するまでに、車イス利用者が避難できる範囲を基準に、地域の皆さんと相談の上、決めさせて頂いたもので、ご指摘のケースであっても基本的に避難は可能だと考えています。

また、質問の道路は、山側へ150号と並行する形で、道路を整備して欲しいという要望だと思いますが、今回はまず津波から地域の皆さんの命を守るた

めの避難地・避難路を整備させて頂くものです。要望の道路整備については、今後必要性や緊急性等をよく検討した上で、市として判断をしていきます。

【関連質問】

数年前の説明で、地頭方から大磯の木之宮神社まで避難路を作ると話がありました。なぜ堀切にはないのかという問いに対しては、堀切には既に高台になる部分があるため、そこを活用するということでした。

その際、平成29年にもう一度見直しを行うので、区会を通じて申し出るようにも言われています。そこで、1年早いとは思いますが、堀切地区の馬込避難路について、いくつか危険箇所があるので要望をします。

- ・避難路の入口部分について、会社の敷地を通らせてもらっており、夜間は門が閉まっているが、万一の時には開けて通って良いと言われています。門の造りとして、片側はブロックに、もう片方は会社の建物に鉄の柵が付いています。地震でどちらかが壊れた場合に、果たしてこの鉄の柵が動くのか。
- ・背丈程のブロック積みがあり、地震で通路に倒れると逃げられない。
- ・会社の先に田があり、そこにスロープをつけてあぜ道に逃げることになっていますが、非常に水はけが悪く、スロープの下まで水が来ている。
- ・避難路で、浸水により通れないところが、2箇所ある。

これらの不具合について、避難路を使っている15名の署名捺印を頂いてきました。区長にもお願いしてありますので、ぜひ対応を検討してください。

【回答：糸田防災課長】

平成24年に津波避難計画を作っていたいただき、平成25年に事業化策定委員会において各避難ビル・避難タワー・避難路をどの様に作るかを決めました。ルール作りをしないと何処でも、ということになってしまいます。

まず、津波が到達するまでに平均14分という予測データがあります。そのうち5分間は揺れます。大きな揺れの後に人は5分程すぐに動けない。そうすると残り4分になります。また、人間が車椅子を押して歩く速度が1分間に55mと言われていることから、4分×55mで220mという数字を基準としました。

国道から220m逃げると、津波は減水しますので、浸水の端から500mは浸水区域外に逃げられるという結論を出しました。500mから海側の地域は避難が出来ない所ということで、半径220mでブロック割りをしてその中で1箇所、避難タワーとか避難路を整備していくという形にしました。

隣の鹿島町内会もそうですが、そこもやはり浸水区域から（山側から）500mに入る所になりますので、当時の計画では逃げられるという想定で避難施設は作りません。

堀切についても同様の理由から作りませんが、平成23年の地震発生当時、避難路整備については2/3の補助金、1/3が地元という補助金を使って少し整備を

したかなと思います。(→スロープを作った)

平成23年当時は都市防災計画がなかったので、本当に獣道みたいな道でもということで、皆さんに知恵やお金、汗もかいていただいて整備しました。

【関連質問】

その件ですが、平成24年度に津波防災まちづくり策定委員会で、飯塚課長、副市長(当時総務部長)を交えて一年かけて計画したのが、6本の避難路・避難場所。それでその時にどうして久保柄・堀切には作らないのかということ質問した時に次期にまわすってということで了解しました。次年度という意味ではなくて次期。とりあえず避難路・避難場所3年、避難タワー等は5年間で整備し、久保柄・堀切地区はその次ということで、当時は了解した。

【関連質問】

私もいましたが、平成29年度に再度見直しをするので、区会を通じて申請してくださいと言われました。

【回答：飯塚建設課長】

地域の皆さんの言う事は何でも聞きたいところですが、国の交付金を受けて津波避難タワー、避難地・避難路の整備を進めており、平成28年度までが第1期、平成29年度からは第2期が始まるということで、現在、整備計画について調整しています。

本日、道路の状態を聞かせて頂きましたので、今後、実施・計画していくについて対象になるか、どういった対応ができるか等検討させていただきたいと思います。

【関連質問】

海岸沿いの堤防は補強の予定はないですか。

【回答：飯塚建設課長】

防潮堤については、管理者が地頭方の東沢川から順に進めていますが、片浜地区がいつとはいえません。

(3) 河川の浚渫等について

片浜地区には距離が短い小河川が数多くあるが、土砂や草木によって河床が見えない箇所が多数見受けられる。地元で管理をするにも人手不足により対応しきれていない。近年の集中的なゲリラ豪雨による災害を防ぐためにも、河川の浚渫をお願いしたい。

【回答：杉本副市長】

今回現地調査したところ、準用河川8河川においては、浚渫を必要とする箇所はほとんど見受けられませんでした。一部においては、小規模な堆積や河積内に草の繁茂が確認されました。担当課と一度立ち会い、現地を確認させていただきたい。

3 会場で出た意見・質問(20:25-21:00)

(1) 片浜小学校の統合問題

片浜小学校の跡地について、具体的な計画がはっきり示されていない。学校に蜘蛛の巣が張らないように、早急に対策を示してほしい。

【関連質問】

関連質問です。今月3日に松崎のまちづくり事例を視察して来ました。それよりも気になったのが、視察後に見た2年間放置された学校です。潮風も多いせいか、鉄部分はほぼ錆びついており、外壁等も汚かったです。

片浜小学校がこうなったらどうしようという想いで帰ってきました。一緒に行った方は、皆同じ思いだったと思います。

片浜小学校が廃校になる3月31日まであと9箇月しかありません。我々は待てられないし、心配で仕方がないです。この件について何か案があれば、ここで披露してもらいたい。

【回答：西原市長】

片浜小学校の今ある体育館・校舎等を来年の4月1日からどのように使っていくかという計画については、早急に決めて皆さんと相談していきたいと思えます。用途としては、例えばコミュニティセンターのような公民館機能を持った施設、図書館、民間教育機関、藤枝のキッズランドのような施設等々、いろんな考え方ができると思えます。

ただ来年の3月31日までは学校ですので、いきなり4月から新たな施設として利用できません。使い勝手を考えていくと計画だけで1、2年かかるかもしれませんが、体育館も校舎も全部使えるので、一部はそのままの形で使える様にしてください。また、駐車場やエレベーターなどの問題をどうするか、といった検討も必要です。

4月1日以降、必要に応じて一部改修しながら一部を使うというような形式になってくるのではと思います。このタイムスケジュールはここ数か月のうちに、早急に皆さんにお話ししたいと考えています。

【関連質問】

市長は、今月14日に開催した片小体育館で開催した報告会で、今よりも賑や

かな施設にするということでしたが、民間の学校法人に施設を売却するという噂も聞きますが、そのような考えはありますか。

【回答：西原市長】

興味があるという声は聞きますが、正式な要請がきたことは全くないし検討もしていません。市の資産を売却する場合、議会とも話をしなければならないし、大変な手続きが必要です。いきなりそういう話になる状態ではないと考えています。

民間の学校法人は非常に助成が多く、市がやらない方が良い場合もあります。例えば保育園を民間が運営すると国からお金がきますが、市がやるとお金が来ません。

【関連質問】

片浜小学校は区の防災拠点にもなってるかと思いますが、そこを民間に売られてしまうと不安です。防災センターだけでは片浜区民の避難場所として十分ではありません。何に使われてもいいが防災拠点と言う考えは残していただきたい。

【回答：西原市長】

指定避難所にはなっていますが、津波が来た場合には避難地・避難所にはなりません。津波が来なければ使えます。

民間へ売却するという事は絶対にはないです。公の財産です。私の母校は地頭方中学校です。学校部分は、今は更地になりましたが、体育館にはちゃんと校章も残り、今も公の体育館として使っています。

そういう意味では、片小の体育館も校章や校歌を残して体育館として使えばいいし、校舎も大改修をしなくても、エレベーターを付ければ非常に使い勝手の良い施設として、区民の拠点になれると思います。

【回答：鈴木防災監】

たしかに片浜小学校は避難所になっています。避難所の要件は、一時的な仮暮らしをする所です。避難地というのは命を救うために一時的に逃げる所ですが、その後、例えば家が倒壊したり流された場合は避難所で生活する。

片浜小学校もコミュニティセンターも両方とも津波が来ると浸水してしまう。地面が濡れていると物資を搬入できない。人の往来も車両の往来もできないということであれば避難所としては不適となる。その時には高台の避難所へ動いていただくこととなります。

想いが込もった小学校を消すことはありません。ここを中心として皆さんの生活を守っていくという気持ちを大事にしていきたいと思います。